

協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。
 ※帰国後2週間以内に提出(送信)してください。
 ※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	香港樹仁大学	氏名	
国名	香港(中華人民共和国特別行政区)	学籍番号	
留学期間	2025 年 8 月 ~ 2026 年 5 月	記入年月日	2026 年 6 月 25 日

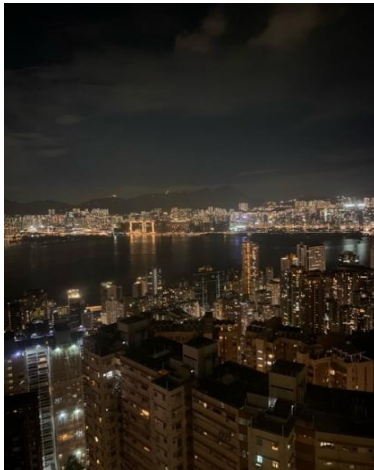
1 履修したすべての科目についてお書きください			
主な専攻分野: 社会学			
科目名	The Origins and Transformation of East Asian Food Culture	科目名	Media and Society
授業内容	食にまつわる東アジアの文化、慣習、歴史への理解を歴史学的な視点から深めた。	授業内容	マスメディアの発展と、その個人および社会への影響を、メディア学の議論に則って概説的に学んだ。
授業形式	対面授業、講義メイン	授業形式	対面授業、講義メイン
単位数	3	単位数	3
サイズ	30人くらい	サイズ	30人くらい
難易度 Course No.	GEA103、1、2年生一般教養科目レベル	難易度 Course No.	GEB102、1、2年生一般教養科目レベル
宿題の量	普通	宿題の量	普通
コメント	期末レポートの文字数は多かった(3000words)ですが、授業について行くことは難しいとは思いませんでした。期末論文のほかに、グループプレゼンがありました。開講学期・年度によって異なるでしょうが、少なくとも私が受講したクラスは、教師が喋っている最中にも話している人が多かったり、他のグループの発表を聞く態度があまりにも悪いどころか、途中で帰ったりする人も多く、びっくりすることが多々ありました(汗)	コメント	毎回の授業およびコース全体がしっかり準備されていて、関心を持って授業を受け続けることができました。課題や授業内容も比較的易しかったように感じます。隔週で実施のQuiz(簡単な小テスト)、グループプレゼン、期末レポートがありました。学籍番号を呼ばれて一言発言を求められることもありましたが、難しくはありません。グループ話し合いなどを強要されることもなく、GD嫌いの気持ちもわかってくれる先生で、大信頼でした。
科目名	The Modern World	科目名	Storytelling
授業内容	15世紀から20世紀ごろの西洋史における特定の出来事や社会変化・変革の歴史的重要性(historical significance)を検討した。	授業内容	既存の映画やドキュメンタリーなどから効果的な「物語り」の手法を学び、それを自ら物語を創作する過程で実践した。
授業形式	対面授業、講義メイン	授業形式	対面授業、講義<個人/グループ創作、映像鑑賞
単位数	3	単位数	3
サイズ	25人くらい	サイズ	25人くらい
難易度 Course No.	HIST220、史学部2年レベル	難易度 Course No.	JOUR205、ジャーナリズム学部2年レベル
宿題の量	少ない	宿題の量	普通
コメント	すごく朗らかなおじいちゃん先生が、すごく楽しそうにずっと話していって授業でした。個人プレゼン及び期末レポートのトピックについて自分でプロジェクトを進めてくれれば良いというスタンスだったので、難しくはありませんでした。このほかに、中間試験(紙媒体のみ持ち込みあり、記述)がありました。	コメント	学期の前半1/3を過ぎたら、3回(2回は個人、1回はグループ)にわたる「物語」の創作および発表や、映画評論のレポート課題に向けた映画鑑賞でした。先生の授業の進め方や雰囲気も相まって、とてもゆるっとした授業でした。物語をつくり、それを口頭で語るというのは初めてのことで、少々苦戦したりしましたが、いい経験でした。

科目名	Chinese Medicine: Health Promotion and Disease Prevention	科目名	Social Problems
授業内容	「TCM(Traditional Chinese Medicine)/中医学」の核心となる哲学や概念、基本的な食療法について学んだ。	授業内容	「社会問題」を定義・分析するための社会学理論を学んだ。
授業形式	対面授業、講義メイン	授業形式	対面授業、講義メイン
単位数	3	単位数	3
サイズ	30人くらい	サイズ	25人くらい
難易度 Course No.	GEA201、1、2年生一般教養科目レベル	難易度 Course No.	SOC231、社会学部2年生レベル
宿題の量	普通	宿題の量	少ない
コメント	日本ではあまり学べない学問分野なのでとても新鮮でした。新しい知見も広がり、率直に楽しかったです。今後も自分で勉強しようと思ったほど。ただ、講義自体はおじいちゃん先生の静かな話し声を2時間半座りっぱなしで聴き続けるだけで、少し忍耐力を要しました。グループプレゼン&レポート、3回の個人レポート、中医薬農園へのフィールドトリップ(1回)がありました。	コメント	各回で1~2個の社会学理論が教授され、そのうちの数個の理論を用いてレポート(香港社会問題に関するドキュメンタリー分析、個人課題)やグループプロジェクト(プレゼンとレポート)を進めるという、とても体系だった、着実に学んでいけるコースでした。講義スタイルや内容も、「ゴリゴリの社会学」に憧れのあった私にとっては満足度が高かったです。
科目名	Popular Culture in Asia	科目名	Collective Memory and Social Change
授業内容	文化研究やメディア論を含む、人文社会学の理論を学び、アジアにおけるポピュラーカルチャーの分析や理解に応用した。	授業内容	(家族や社会といった)共同体の集合的記憶にまつわる社会的な理論や、オーラルヒストリーの手法や効果などを実践的に学んだ。
授業形式	対面授業、講義メイン	授業形式	対面授業、講義+クラス内グループワーク多め
単位数	3	単位数	3
サイズ	20人くらい	サイズ	20人くらい
難易度 Course No.	SOC312、社会学部3年生レベル	難易度 Course No.	SOC409、社会学部4年生レベル
宿題の量	普通	宿題の量	やや多い
コメント	「好きなことを研究する」を体現されているとても愉快的な先生で、リラックスしながら楽しく授業を受けることができました。相談もしやすく、フィードバックやサポートも手厚かったです。中間レポート、期末レポートの字数は多めでしたが、やりがいはあります。総じて、充実したコースでした。グループプレゼンとコメントシート的な小課題も5回ほどありました。	コメント	受講生を授業に巻き込むのに長けている先生で、講義内容も綿密に設計されており、学びに集中できるコースでした。メモリースタディーズの理論などを専門的に扱うというより、社会学における「記憶」を個々人の経験に落とし込みながら学ぶ、という実践的なスタンスのコースでした。個人発表(極めて易しい)、グループプレゼン、期末レポート、博物館見学がありました。
科目名		科目名	
授業内容		授業内容	
授業形式		授業形式	
単位数		単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.		難易度 Course No.	
宿題の量		宿題の量	
コメント		コメント	

2	授業において困ったこと、その解決法について教えてください
	しばしば、広東語や普通話で説明ややりとりがなされることがありました。先生ご自身や現地学生の第一言語使用なのでむしろ尊重していましたが、私は留学生であることを伝えて、英語で情報保障してもらいました。(そもそも交換留學生が受講できる授業の使用言語は原則英語なので、教員が英語を使用しない場合の異議申し立てに遠慮はいらないと、バディーたちには言われました)そして重要な内容でなければ、「勉強になるな〜♪」と喜んで聴いていました。また、課題の多さには精神を削られました。ほとんどの授業で①出席(毎回呼名or名簿にサイン)②中間レポートor中間試験③グループ発表(+レポート)④期末レポートor期末試験 相当の課題が課されます。加えて交換留學生は各セメスターに4~5の授業を取らなくてはならないので、単純に量が多いです。せっくなので英語力向上のためにも一つ一つの課題とじっくり向き合いたかったのですが、それを阻むようなコース設計だったように思います。期末の時期は特に、みんな疲れが顔に出ていました。キャンパスや自室に籠っていると気が滅入ってしまうので、適宜山を下って街に出て気分転換をすることが大切だと身を以て感じました。
3	授業以外の活動についてお書きください
	CIE(津田の国際センターのような、樹仁大で留学関連の業務を担当する部署)やexchange buddy主催の文化体験イベントやお出かけに参加したりしました。他の留學生や現地の友達の遊びの誘いにも積極的に応じていました。数年前に津田塾で交換留学をしていた樹仁大の卒業生にも再会しました！セメスター1、2ともに各6週ずつ、Language Center主催の初心者広東語クラスがあったので、セメスター1のみ参加しました。その後は、持参した『ニューエクスプレス広東語』やネット、SNSを教科書に独学+友達との会話やお店でどんどん使用することで広東語の勉強を続けました。ひとりで出かけたり旅行をしたりすることが好きなので、休日や放課後も積極的に街を歩いたり、香港各地を訪れました。サークルや部活には、特に参加していません。
4	寮(またはアパート、フラット)の生活について教えてください
	寮(またはアパート、フラット)名とその場所 樹仁大にはResidential and Amenities Complex(R&A)とResearch Complex、2つの寮があります。いずれもキャンパス内にあり、講義棟や図書館にはすぐ移動することができます。私たち今年度の交換留學生はR&Aの22階に住んでいました。キャンパスは北角の寶馬山に位置しており、MTR北角駅からは徒歩20分、銅鑼灣からはバス/ミニバスで10分程度です。非常に便利な立地だと思います。 設備についての簡単な説明 各人にロフトベッド(ベッドの下に学習机や引き出しがある)とタンスがあります。各部屋にはバスルーム(シャワー・トイレ)が付いており、Wi-Fiもあります。部屋は正直狭いと感じます。(なので、洗濯バサミやS字フックがあると便利です！限られたスペースを有効活用・身の回りを多少でもスッキリさせることができます。)キッチン、21階にあるものを22階と21階の住人で共有します。各フロアには共用の冷蔵庫が1台ありますが、各部屋が割り当てられているスペースはとても狭いです。電子レンジも各階に1台あります。R&Aの地下1階には洗濯室があり、洗濯機と乾燥機が各8台ずつくらい設置されています。同階にはウォーターサーバーも設置されています。いずれも、24時間アクセス可能です。(ウォーターサーバーは、講義棟には各階にあります。)
	部屋について 2人部屋 広さ 量くらい
	ルームメイトについて 前期はロシアからの交換留學生でした。彼女は週に2日しか授業がなかったもので、毎週のように、彼氏が住んでいるマカオや周辺地域に旅行に行っており、部屋にいないことが多かったのです(笑)お互い夜型人間で、夜中の3時まで普通に起きていたり、生活リズムも合っていて過ごしやすかったです。後期是北京からの交換留學生でした。色々なお話をしたり、ケーキで誕生日を祝ったりと楽しく過ごした一方で、日常的にお互いあまり干渉し合うこともなく、リラックスして過ごすことができました。ルームメイトとは、電気代(エアコンとシャワーのお湯を温める装置)を割り勘しました。
	寝具や生活用品の入手方法 シーツと枕と枕カバーを、到着した日にIKEAで購入しました。少し肌寒くなってきた11月頃には、IKEAで掛け布団を買いました。他にもダイソーやイオン、3COINS(キャンパス近くの銅鑼灣に香港1号店があります！)など、日本人にとって馴染みのあるお店もありますが、私は「日本城」という生活用品のチェーン店や、見るからにローカル感漂う生活用品・雑貨屋さんをお店好んでいました。品数が多くて見て楽しいのと、価格もリーズナブルに感じられたからです。(この類のお店は、香港島だと湾仔や北角、上環あたり、九龍だと深水埗や太子あたりで見つけやすい気がします。たいていの場合、現金か八達通=Octopus支払いです。)前期で帰国した留學生に、電気ケトルやドライヤー、余った消耗品や食料をもらったりもしました。
	生活の感想 ①寒い冬が大の苦手・1年の半分からは花粉症の私にとって、香港の気候は最高でした。特に10月~2月ごろはほぼ毎日快晴で、同時期の日本より断然暖かく、過ごしやすかったです。また、花粉によるアレルギーを忘れられた1年間でした。しかし、2月末~4月ごろは、日本の梅雨の時期とは比にならないくらい湿度が高く、連日どんよりした天気だった印象です。特に樹仁大の寮はジメジメしていて、私も他の留學生も、服や小物や部屋の壁がカビました(涙)②基本的にGoogleマップを利用していましたが、情報が載っていないことや(営業時間がその日の裁量で変わることも日本よりかは多いため)情報があてにならないことも多いです。その分、「街を歩きながら街を知る」ような、偶然性に開かれた日々を送れて楽しかったです。
5	食事についてコメントを書いてください
	おおよその頻度は、自炊≧テイクアウト>外食。自炊といっても、移動コストや混雑回避のためにキッチンからはだんだん足が遠のいてしまったので、電子レンジ調理で済ませることが多かったのです。テイクアウトに関しては、専ら、現地の方が個人でやっているようなお店で、好きなおかず2種類を選んで白米と詰めてもらう「兩飯飯 loeng sung faan/Rice with two dishes」を愛食していました。(私の留学時では28hk\$が最安値でした。)パン屋さんにもよく行っていました。外食は茶餐廳(香港式の喫茶店兼大衆食堂的な飲食店)やサイゼリヤ(日本とメニュー全然違うんですよ！あと香港外食では比較的リーズナブルです)によく行っていました。私は一度も利用しませんでした。デリバリーをしている人も意外と多いです。

6	医療保険についてお書きください	
	渡航前に加入した保険	
	OSSMA Plus	
	留学先大学にあった医療保険制度	
	なし	
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)	
	受けていません	
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)	
	(現地通貨)	
	渡航旅費	25,000 円
	帰国旅費	50,000 円
	引越し(往復で)	43,000 円
	保険	73,000 円
	語学研修費	0 円
	留学先学費	0 円
	本学学費	200,000 円
	教材費	0 円
	住居費	23,000 460,000 円
	食費	22,000 440,000 円
	その他(交通費)	5,500 110,000 円
	(生活費)	4,400 88,000 円
	(娯楽費等)	15,000 300,000 円
	合計	約1,800,000 円
	換算率 (1hkd = 20 円)	
	受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください	
	業務スーパージャパンドリーム財団奨学金(給付)	
8	留学前の準備について教えてください	
	日本から持参すべきもの	
	モノへの執着が強いうに不安症な私は、重量オーバーで課金しながら色々持参したのですが、逆に「わざわざ持参なくていいもの」の方が多かったです。香港の場合は、思っている以上に「現地調達」で事足りることを強調しておきたいです。とはいえ、①日常的に使う消耗品は1週間～当面の間分、小分けにして持参してもいいかもしれません(トラベル用シャンプーなど、ティッシュ1パック、洗濯用洗剤(ジェルボールなど)、フリーズドライ食品や軽食)。到着した日に急いで適当に買うより、最初の1週間でじっくり選んでよりお得に、好みに合ったものを買う方が良いと思ったからです。②常備薬(普段頻繁には使用しない薬も含め):生活リズムの変化や気候の違い、何より留学中は無意識に肩に力が入っていて疲れやすく、意外と体調崩します。自分が使わなかったとしても、他の人にあげたり意外と役に立ったりします。③日本土産:お菓子、文房具、生活用品系は香港でも普通に手に入るの、あまり向いていません。私は和柄や日本語の書かれた手拭いハンカチを7枚くらい持っていったのですが、こちらは良かったです。「MADE IN JAPAN」の「THE日本土産」的なモノが10セット以上あったら良かったなと思いました。	
	留学前にしておけばよかったこと	
	QRコード決済やクレジットカードなどの認証を電話番号ではなくメールアドレスに変えておくか、電話番号認証が必要なサービスは日本で設定を済ませておくのがいいと思いました。差し迫った問題というほどではありませんが、たとえば私は、持参した日本のカードのオンライン支払い認証が電話番号(SMS)だったので、HK Alipayにカードを紐づけて使うことができず、もどかしさを感じていました。(どうしても使いたかったので、一時的に日本のSIMに入れ替え、国際ローミングを数時間契約することでSMSを受け取ることができるようにし、対処しました。)また、WISEなど、手数料がゼロ/格安のカードを作っておけばよかったかも…と少し後悔しています(涙)少額とはいえ、毎度手数料を取られるのは「塵も積もれば山となる」でした…。	

9	適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください ①最初の方は、約2時間半という授業時間の長さには慣れませんでした。多くの先生方は授業中適宜休憩時間を設けてくれるのですが、たまに、好きに話し続ける先生なんかは休憩なしで突っ走ります(笑)ともあれ、私は休憩の有無に関わりなく、同じ授業に90分以上拘束されることに疲れを感じていたのですが、そのうち慣れました。②大学の教室を含め、香港の屋内施設(MTRの車内、飲食店、ショッピングモールetc.)は夏も夏以外も冷房が効きすぎていて極寒です。羽織ものを必ず携帯していましたが、(日本でも冷房があまり得意ではない私は)特に教室では、授業の長さも相まって毎度具合が悪くなりかけました。③留学生の友達が話すアクセントの強い英語やスラングの多用にも、なかなか慣れませんでした…英語非母語話者が話す英語は問題なく聞き取れるのですが、イギリス北部のアクセントで話す子や、スコットランド人、シンガポール人など、英語第一言語話者の子たちが話す英語の聞き取りに苦戦していました…。
10	留学の成果(学習面・精神面)を教えてください 初めて、言語自体への興味以外に言語を学ぶモチベーションや喜びを見出すことができた点です。私は文法や語彙への関心と、言語の授業がとても好きだという理由で、これまで主に津田の授業(+独学)を通じて10以上の言語の学習歴がありますが、英語も含めてその言語を使って人とコミュニケーションをとることやポップカルチャーなどを消費・鑑賞することにあまり興味がありませんでした。しかし、留学生グループにいる人の大半の母語を少しだけ知っている・話せることがその人との話題になったり、勉強を続けたい・再開したいという動機になったりと、学問的関心ではない部分で心が満たされる経験をしました。また、「現地ではできるだけ現地語を使う」という自身の信条に従って生活のなかで積極的に広東語を使うなかで、初めて座学以外の方法で言語を習得する経験と、目標言語が自分の人生経験と結びつくことで更なる学習の動機となる経験をすることができました。滞在中に香港映画にハマリ、推しもできたことで、趣味を通じて目標言語に触れるという経験も現在進行形でしています。9ヶ月間の海外生活を通じて得られた学習スタイル・動機と心の動きの変化という点で、真っ先に挙がる「留学の成果」です。
11	今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください 4年第3タームに復学して卒論を書きます。その後、おおよそ同じ分野で大学院(国内・外部)に進学する準備をしています。尚、研究内容は香港に関するものではありません。樹仁大で受講した授業は、私の研究分野にドンピシャで直結するわけでもありませんが、多くは周辺領域として位置付けられる分野です。私はもともと、大学院進学の前にもっと学部で勉強したい・本を読みたい・研究計画を入念に立てたいと思い、親にこれ以上の金銭的負担をかけずに卒業を遅らせる方法を考えていました。その手段として交換留学を選んだ節があるのですが(※もちろん、長年の留学への憧れと、香港や東アジア研究への興味関心が主要な動機ではありません)、香港での留学生としての生活は、想像以上に忙しく、また楽しく、当初想定していた「勉強」をすることがまったくできませんでした！(重課金して本をたくさん持参したのに、ほとんど読めずに重課金して持ち帰りました涙)結局、新たな視点や学びを得たり、今までやっていなかったことから距離をとって今後やりたいことを再考できたので、私はこれで良かったのですが、留学中に就活や進学準備、もともと抱えているプロジェクトなどを詰め込もうとすると、「留学・現地でしかできないこと」との間で板挟みになってしまうことがあるかもしれません。
12	留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします 私は、津田での学びに充足感を覚え、長年の留学への憧れはお預けでもいかなと思っていた矢先の3年9月半ば(学内選考出願締切の約1ヶ月前=先生に推薦書執筆をお願いすることを踏まえた場合の最終決断ライン)に、急に思い立って「今週末の人生初IELTSで基準満たしたら応募する！」と、ギャンブルみたいなやり方で留学を決心しました。とはいえ、留学に関心がなかったわけではないので1年次よりある程度の情報を収集していたこと、GPAが高かったこと、目的意識や自己内省を一貫性をもたせながら言語化することが得意なため、願書を書くことや奨学金の申請が苦でなかったことなど、自分の性格や何気ない積み重ねが即断即決チャレンジの後押しになった節は否めません。また、応募当時までにだいたひ学業に打ち込んだことで、留学に挑戦しようと思える最低限の学術的素養や目的意識を持ち得たことも自信につながったのだと振り返ります。着実に不安の種を潰すことで、肩の力を抜いて留学に思い切ることができるように思います！あとは、どんなに留学体験談を見聞しても、どんなに留學生生活をシミュレーションしても、留学の良し悪しや学び、生活の感触、何を感じるか・考えるかは、いざ自分が準備を始めてみないと、日本を発ってみたいと、その地に行って生活を始めてみないと何もわからない！——これに尽きます。私たちのexchange buddies(留学生のお世話をしてくれる現地学生)の中には、過去にもbuddyを経験したことある学生が何人かいて、「きっと数年前にこの留学体験記を書いた津田の先輩だろうな～」と思いき方の名前やエピソードを聞いたりしました。今後、私がお世話になった子たちがまたbuddyを務めたときに、これをご覧になっているとあなたが、私の名前やエピソードを知り得ることがあったら嬉しいなと思います♪
13	その他、ご自由に意見を書き込んでください 「香港」での「交換留学」、とてもおすすめです！①費用面：年によって異なるので保証はできませんが、①留学先授業料を大学側が負担してくれて、②(今回私が受給した業務スーパー奨学金のような)支援額が手厚い奨学金を獲得できれば、ほとんど自己負担なしで1年間の海外留学をすることができます。(※支給額をオーバーしてしまった支出は、留学とは別に月々借りている奨学金や貯金から補いました…依然として、「親にできるだけ金銭的負担をかけずに1年間留学する」ことが可能なこと、経済的困難を理由に留学を最初から諦めなくてもよいことをお伝えしたいです。)②言語面：英語さえできれば出願でき、ハードルが低いと言えます。私自身、津田の二外の授業を6言語すべて履修したことがあるのですが、どれも中途半端で、英語以外の言語で留学するのは非現実的でした。加えて、学問的関心ゆえに東アジアで勉強したく、現地の言語(英語以外)=広東語を新しく学ぶことにも野心があった私にとって、香港はベストな選択肢でした。(※樹仁大には広東語の授業はないので、独学+生活の中で習得しました)③手続き面：両大学の職員の方々が煩雑な手続を仲介・手助けしてくださることは、協定校留学の有難い点だと思います！このとても守られた制度のおかげで、興味関心の赴くままに挑戦ができ、学習に集中することができるということも過言ではないです。④立地：香港島、特にキャンパスが位置する寶馬山は、いわゆる「お金持ちが住むエリア」の一つなのだそうです。(寮の棟と階によっては)ヴィクトリアハーバーを望むこともできる、繁華街へのアクセスもいい場所に、家賃月5万円台(※留学当時)で生活できるのは、またとないチャンスです！

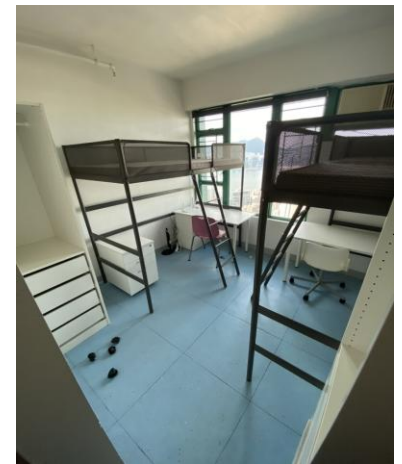


寮の自室からの眺めです

✨
圧倒されまくりだった初日夜に、とても癒されたのを思い出します。何度眺めても飽き



9月末に、警戒レベル最大級の台風が来ました。その際、エアコンからの水漏れで部屋が洪水しかけました。



寮の自室です。※交換留学生在が毎年同じタイプの部屋になるとは限りませんが、ご



留学生とマカオに行きました。Mo宿なしで夜を明かし、始発フェリーで香港島に帰り、グッバイパーティに参加するという、強行プランを立てた友達がいたので便乗しましたが、とても楽しかったです。前期は、エネルギーギッシュで、屈託のない明るい人たちが多かったです。



キャンパス裏の山でハイキング。スカイスクレイパーだけでなく、豊かな自然が身近なところも、香港の魅力です ✨



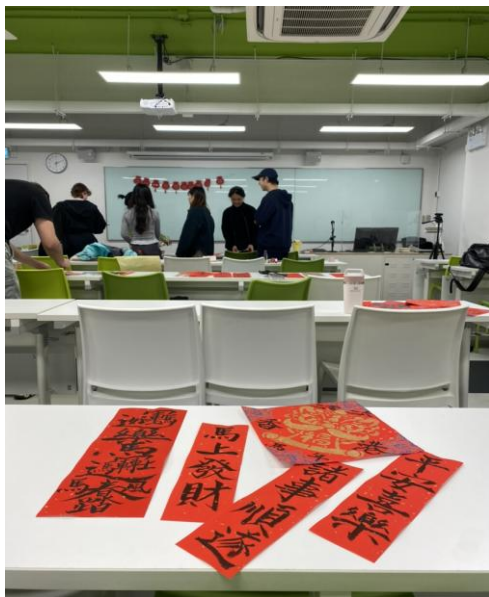
学内の陸上大会に出場し、高跳びで銀メダルをもらいました！高校ぶりの跳躍で楽しかったです。友達とリレーも



後期の留学生と大澳に行きました。ほとんどの留学生が半期で帰国したので、メンバーが大きく入れ替わりました。



お世話になった先生と。留学生のことを手厚く歓迎してくださり、たくさん話しかけてくださったほか、授業に行くたびに書物や文具など、お土産をいただきました。



CGE主催の、Lunar New Yearのワークショップ。1年間の留学のいいところは、留学先のあらゆる年中行事を体験できるところにもあると思います。



クラスメートと先生と。この授業では、私を含めて5人の交換留学生がいてとても楽しかったですが、これは稀なケースです。たいていは、1クラスに1～2人留学生がいるかないくらいです。その分、現地学生と関わることが多いです！